

平成29年度 第2回 総合教育会議資料

(仮称) 教員するなら四日市プロジェクト ～子どもと先生の笑顔あふれる学校づくり～	1
事業検討資料 1 学校業務アシスタント (仮称)	2
2 部活動協力員 (仮称)	3
3 校務支援システム	4
(仮称) 新教育プログラムの策定に向けて	5
<説明資料 (第1回会議からの継続テーマ)> プログラミング教育とは	6

教 育 委 員 会

(仮称) 教員するなら四日市プロジェクト ～子どもと先生笑顔あふれる学校づくり～ (案)

○ 目的

多忙化する学校や教職員の現状を把握し、教職員の負担軽減に向けた取り組みを推進することにより、子どもと先生が明るく元気に向き合うことのできる、笑顔あふれる学校を創る

複雑化・多様化する課題が集中し、教員が授業等の教育指導に専念しづらい状況にあることや、平日における教職員の長時間勤務が常態化している現状をふまえ、以下、三つの柱に基づく具体的な取り組みを進めることにより、教職員の負担軽減を図る。これにより、教職員が子どもたちと向き合う時間を確保し、教職員が誇りとやりがいを持てる環境を整える。

○ 取り組みの概要

現状と課題	取り組みの柱	対 応	具体的な施策・取り組み ◎：市の施策、取り組み ●：学校の取り組み
▼課題の複雑化・多様化により、教員が教育指導に専念しづらい状況にある ▼教育指導以外の校務量が増えている ▼家庭や地域の教育力の低下により、学校に求められる役割が拡大している ▼普通学級における特別な支援を必要とする子どもが増加している	教職員の担うべき業務に専念できる環境を確保する	チームとしての学校を実現する →教育指導以外の業務を軽減する チームとしての学校を実現する →専門性を生かす体制を整備する	◎ 学校業務アシスタント配置 ◎ 校務支援システムの導入 ◎ 校内整備（草刈等）予算の拡充 ◎ 特別な支援を必要とする子どもへの指導体制の整備 ◎ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の配置の充実
▼適切な休養を伴わない一部の部活動により、教員にも生徒にも様々な無理や弊害が生じている	部活動の負担を軽減する	部活動の適正な運営等を検討する	◎ 部活動協力員（仮称）の配置 ● 部活動休養日の設定 
▼平日における長時間勤務が常態化している	長時間労働という働き方を改善する	学校のマネジメント機能を強化する	◎ 会議・研修会の開催や調査・文書等の精選 ◎ 会議や研修等を実施しない期間の設定 ◎ 市内統一の休校日の設定 ● 学校で統一して取り組む項目の目標設定 ● 定時退校日の設定 ● 会議時間の短縮 

1 学校業務アシスタント（仮称）

1 現状と課題

- (1) 複雑化・多様化する課題が集中し、教員が授業等の教育指導に専念しづらい状況にある。
- (2) 普通学級における特別な支援を必要とする子どもが増加している。
- (3) 平日における長時間勤務が常態化している。

2 施策の内容

- (1) 教員が担うべき業務に専念できる環境を確保するために、多忙化する教員の業務の見直しを行い、教員でなくても可能な業務などを補助する「学校業務アシスタント（仮称）」を配置する。
(業務例) 印刷、教材教具等の準備や片づけ、学年等の会計、校内物品の管理等

3 期待される効果

- (1) 教員の業務軽減が図られ、子どもと直接向き合う時間や教科指導に充てる時間がより多く確保できる。

4 今後必要な取り組み

学校規模によって業務の過密度が異なるため、「学校業務アシスタント（仮称）」が担うべき業務や効果的な運用等について検証を行い、本市の現状に即した事業構築を図る。

学校現場における業務の適正化に向けて 次世代の学校指導体制にふさわしい教職員の在り方と業務改善のためのタスクフォース報告（概要）

- 学校が抱える課題が複雑化・困難化する中、**教員の長時間労働の実態**が明らかに。
- これからの時代を支える創造力をはぐくむ教育へ転換し、複雑化・困難化した課題に対応できる「**次世代の学校**」を実現するため、**教員が誇りや情熱をもって使命と職責を遂行できる環境**へ。
- 教員の長時間労働の状況を改善し、教員が子供と向き合う時間を確保**するための改善方を提案。

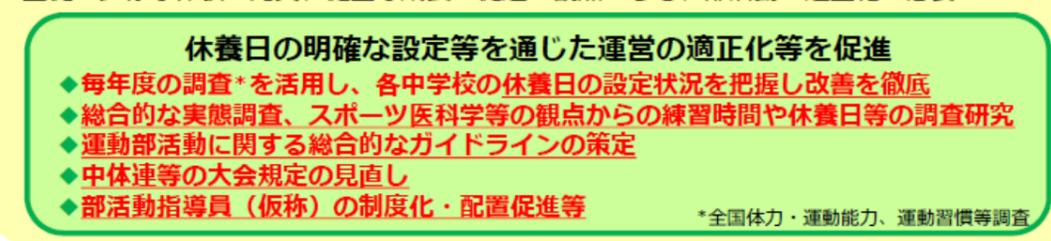
1. 教員の担うべき業務に専念できる環境を確保する

学校や教員の業務の見直しを推進し、教員が担うべき業務に専念できる環境整備を推進
業務改善と学校指導体制の整備を、両輪として一体的に推進



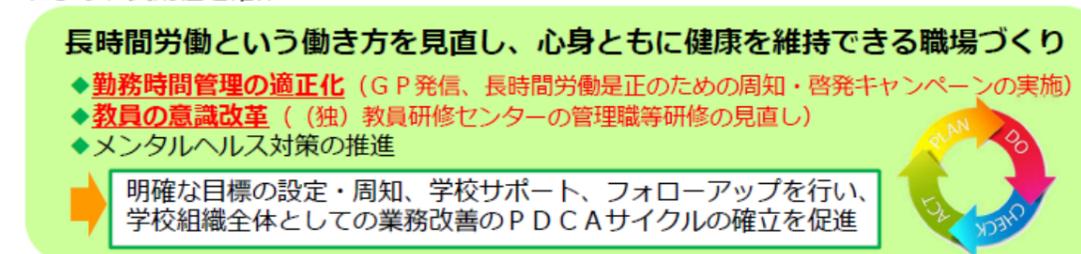
2. 部活動の負担を大胆に軽減する

生徒の多様な体験の充実、健全な成長の促進の観点からも、部活動の適正化が必要



3. 長時間労働という働き方を改善する

業務改善を断行するためには、**働き方そのものの価値観の転換**が必要
国、教育委員会、学校の**パッケージの取組（明確な目標設定と、適切なフォローアップ・支援）**により、実効性を確保



4. 国・教育委員会の支援体制を強化する

- ◆ **省内に「学校環境改善対策室」（仮称）を設置、業務改善アドバイザーを配置し自治体等に派遣**

2 部活動協力員（仮称）

1 現状と課題

- (1) 教諭及び常勤講師全員が部活動顧問を担当している。
- (2) 部活動顧問の業務は、技術指導、学校外での活動の引率、生徒の健康管理等である。
- (3) 放課後や休日の部活動指導が長時間勤務の要因の一つとなっている。
- (4) 部活動の競技経験のない教員が顧問を任される場合も多いため、専門的な指導が難しく、精神的な負担増となる。

2 施策の内容

- (1) 部活動指導員の制度化に伴い、以下の業務を行うための「部活動協力員（仮称）」を配置する。
 - ・放課後の部活動における、顧問が不在時の見守り・安全管理
 - ・各顧問が作成する活動計画に従った競技指導の補助
 - ・顧問同伴での大会等の引率指導

3 期待される効果

- (1) 教員が、放課後に教育相談や授業準備、家庭訪問を行うことができる。
- (2) 子どもの活動中の安全管理ができる。
- (3) 競技経験のない顧問が配置された部活において、より専門的な指導が実現する。

4 今後必要な取り組み

「部活動協力員（仮称）」の担うべき業務の詳細な整理や、現行の外部指導員等の制度との整理を行うことにより、本市の現状に即した制度構築を図る。



3 校務支援システム

1 現状と課題

- (1) 現在、市内の小・中学校では、児童・生徒名簿や成績表、出席簿、保健管理記録、指導要録などの児童・生徒に関する記録・情報がそれぞれ別々のファイル（データ）で管理されている。
- (2) 各校において書式（フォーマット）が異なっている通知表や指導要録等の各帳票を作成するには、各ファイルから手作業でコピー貼り付けを行っている。そのため、異動のたびにその学校の書式（フォーマット）を覚えなくてはならないこと、何度も点検・確認作業が必要になること、データに不具合があった場合の対応に時間がかかること等が事務負担となっている。

2 施策の内容

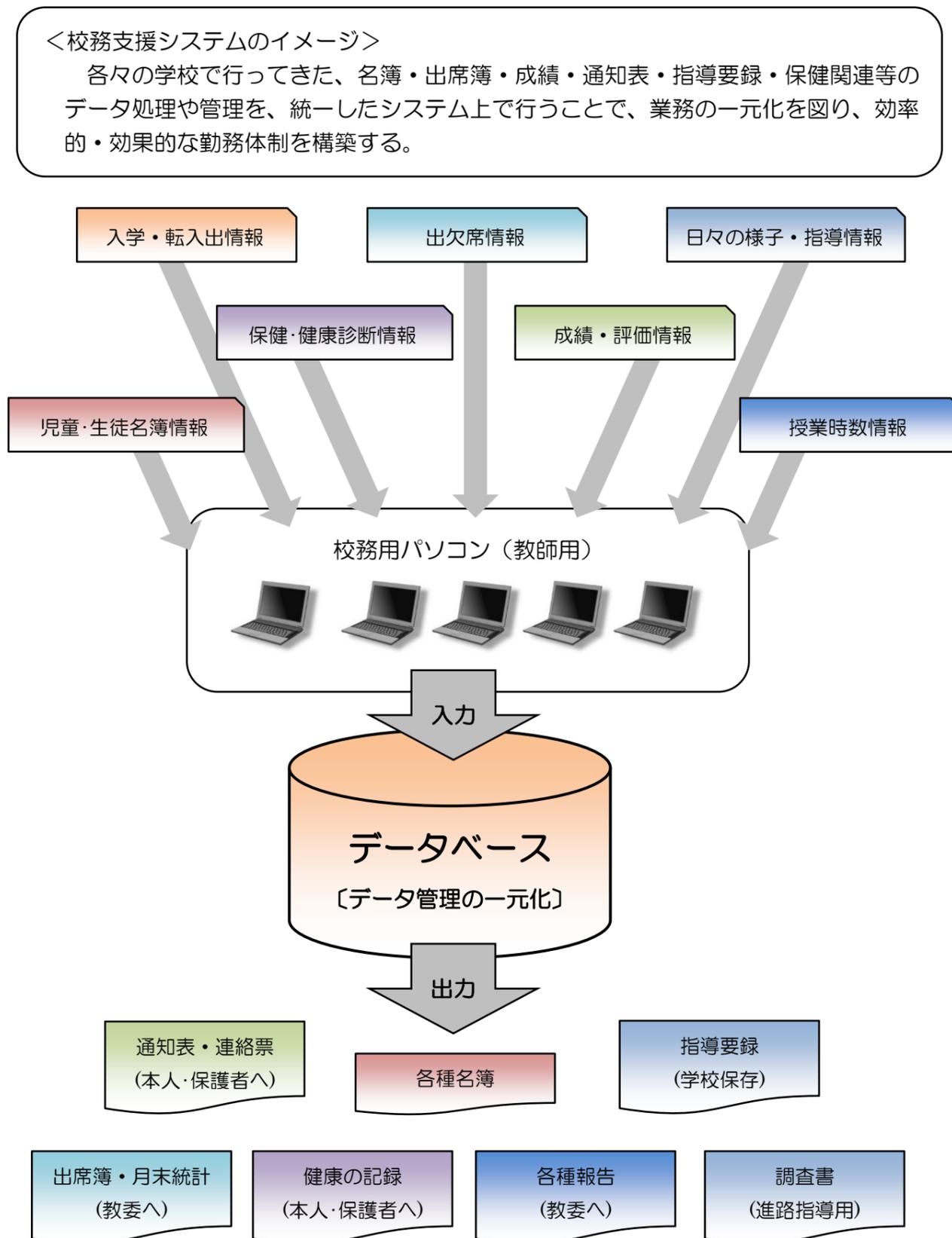
- (1) 新規に専用のサーバを導入し、市で統一の校務支援システムを稼働させる。
- (2) 各教職員は各学校の校務用パソコンを通じて校務支援システムを利用する。
- (3) 児童・生徒に関わる種々の記録・情報をシステム内で一括管理するとともに、各データを連動させ、学校内や教育委員会で共有し、利用する。

3 期待される効果

- (1) 重複した無駄な作業を削減し、転記・点検作業の効率化と、ミスの防止を図ることができる。
- (2) 指導要録の電子保存が可能になり、入力や管理がスムーズかつ安全になる。
平成 3 2 年度の学習指導要領改訂による新しい書式にもスムーズに移行・対応できる。
- (3) 情報の一括管理により、情報のセキュリティが強化される。
- (4) システムや書式（フォーマット）を統一することで、校務の標準化を進めることができ、異動にともなう教職員の負担を軽減することができる。
- (5) システム導入により教職員の事務時間を縮減できる。

4 今後必要な取り組み

校務支援システム検討委員会を立ち上げ、必要な機能の選定や運用方法、帳票様式など、実務に即したシステムの検討を進める。



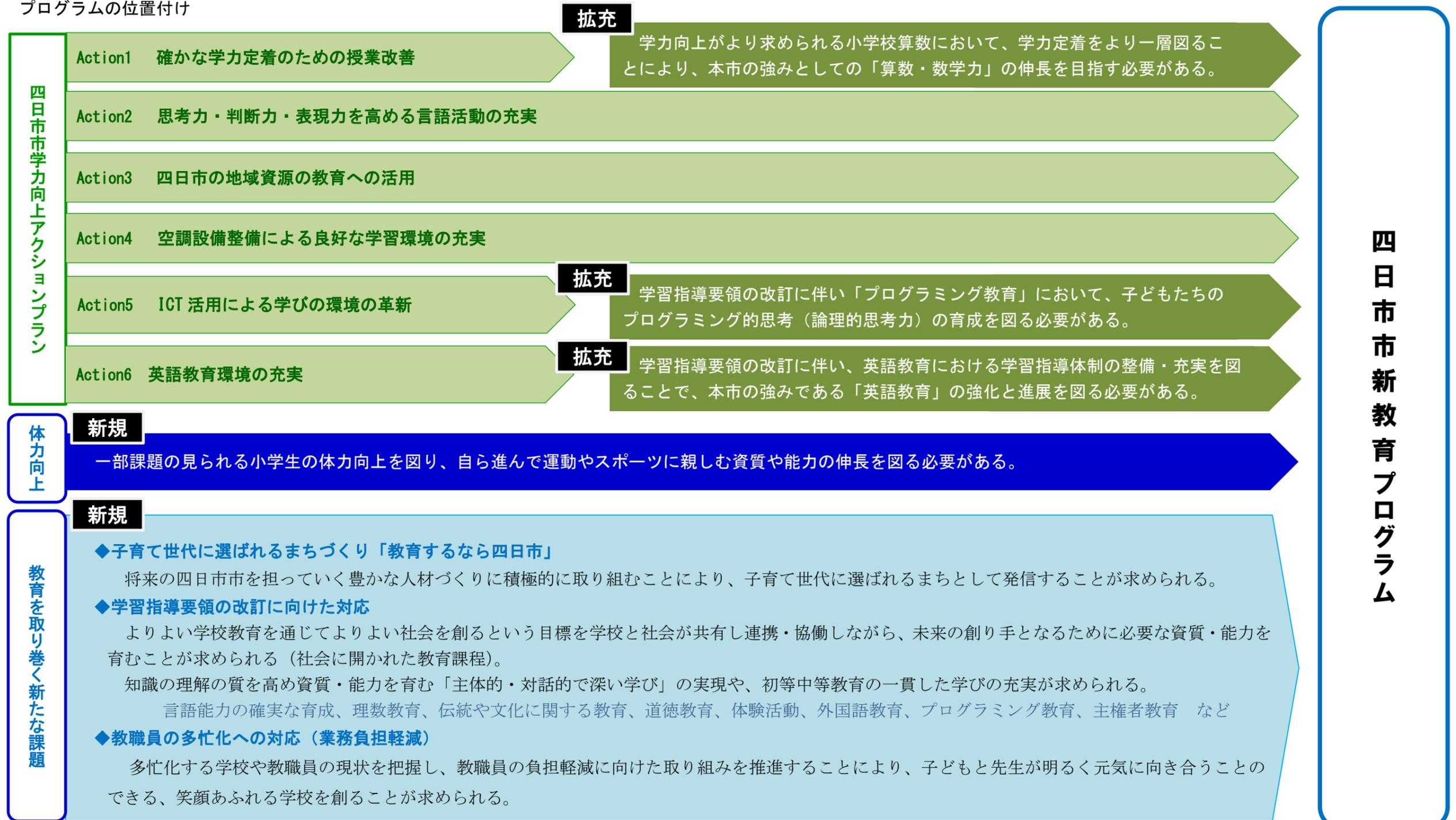
(仮称) 新教育プログラムの策定に向けて

1 趣旨

本市では、平成 27 年度に「四日市市教育大綱」を策定し、その理念を着実に実現するための取り組みを進めています。一方、人口減少・少子高齢社会にあって、将来の本市を担っていく豊かな人材づくりに積極的に取り組むことにより、子育て世代に選ばれるまちとして発信することが求められています。

本プログラムは、四日市市教育大綱の理念に基づき、平成 28 年度に策定した「四日市市学力向上アクションプラン」をより具現化し発展させるとともに、新たに体力向上の視点や、教育を取り巻く新たな課題への対応も含んだ、より総合的な取り組みを進めるものです。本プログラムにより、「子育てするなら四日市」「教育するなら四日市」という都市イメージを構築し、本市独自の教育の取り組みを広く展開していきます。

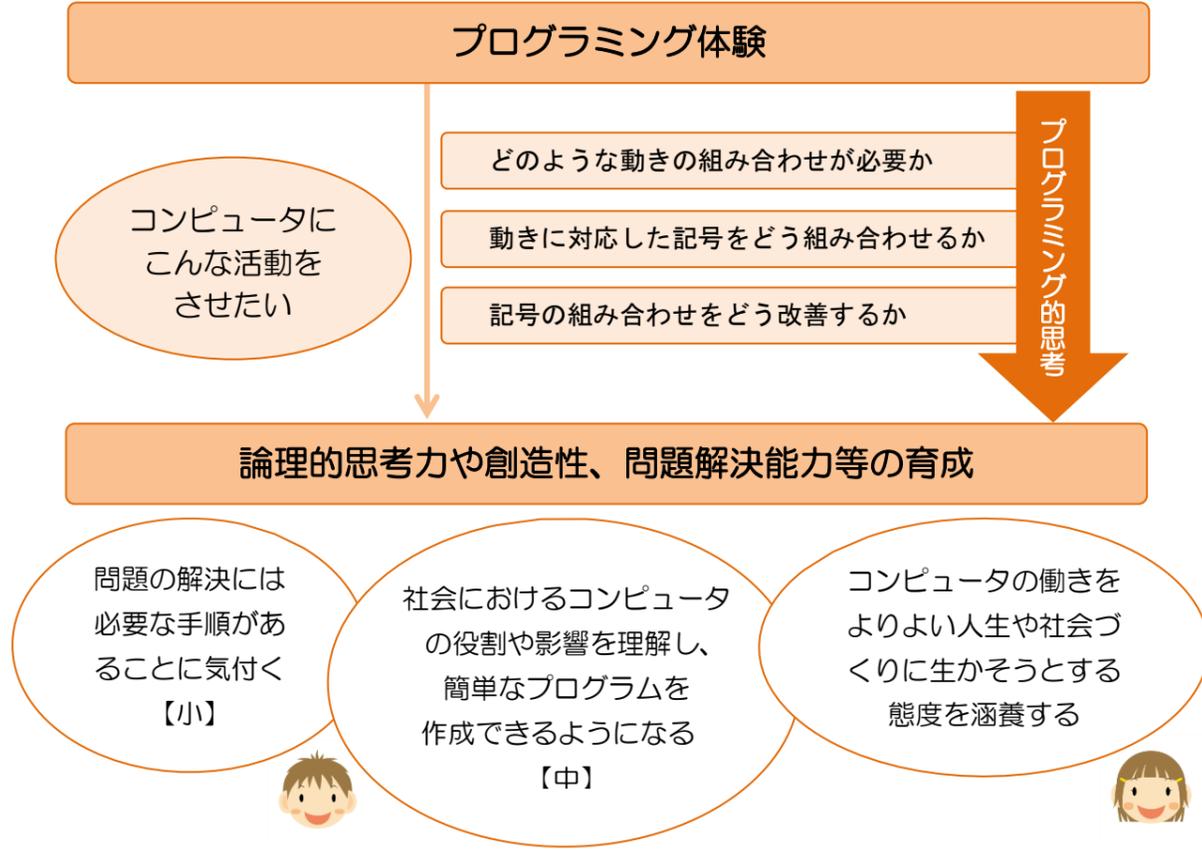
2 プログラムの位置付け



プログラミング教育とは

1 プログラミング教育とは*

子どもたちに、コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができるということを体験させながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考」などを育むこと



2 プログラミング教育の教育課程への位置付け

- 【小】 総合的な学習の時間、理科、算数、音楽、図画工作、特別活動 等
- 【中】 技術・家庭科 等 ※小・中とも、全教科・領域で実施可能

3 プログラミング教育を実施する前提

- ・言語能力の育成や各教科等における思考力などの資質・能力の育成
- ・ICT環境の整備や指導体制の確保等の条件整備

※小学校段階における論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成と プログラミング教育に関する有識者会議 議論の取りまとめ「小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について」より抜粋 (平成 28 年 6 月 16 日 文部科学省)

小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について (議論の取りまとめ)

平成 28 年 6 月 23 日
教育課程部会
小学校部会
資料 5-1

プログラミング教育の必要性の背景

近年、飛躍的に進化した人工知能は、所与の目的の中で処理を行う一方、人間は、みずみずしい感性を働かせながら、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかなどの目的を考え出すことができ、その目的に応じた創造的な問題解決を行うことができないなどの強みを持っている。こうした人間の強みを伸ばしていくことは、学校教育が長年目指してきたことでもあり、社会や産業の構造が変化し成熟社会に向かう中で、社会が求める人材像とも合致するものとなっている。

自動販売機やロボット掃除機など、身近な生活の中でもコンピュータとプログラミングの働きを受け取り、これらの便利な機械が魔法の箱ではなく、プログラミングを通じて人間の意図した処理を行わせることができるものであることを理解できるようにすることは、時代の要請として受け止めていく必要がある。

小学校段階におけるプログラミング教育については、コーディング (プログラミング言語を用いた記述方法) を覚えることがプログラミング教育の目的であるとの誤解が広がっているのではないかと指摘もある。

プログラミング教育とは

子どもたちに、コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということを体験させながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考」などを育成するもの

プログラミング的思考とは

自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力

プログラミング教育を通じて目指す育成すべき資質・能力

学びに向かう力・人間性等

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

【知識・技能】
 (小) 身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと。

【思考力・判断力・表現力等】
 発達の段階に即して、「プログラミング的思考」を育成すること。

【学びに向かう力・人間性等】
 発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること。

こうした資質・能力を育成するプログラミング教育を行う単元について、各学校が適切に位置付け、実施していくことが求められる。また、プログラミング教育を実施する前提として、言語能力の育成や各教科等における思考力などの育成が重要である。

【小学校段階におけるプログラミング教育の実施例】

総合的な学習の時間	音楽	図画工作	特別活動
自分の暮らしとプログラミングとの関係を考え、そのよさに気付く学び	制作用のICTツールを活用しながら、音の長さや高さの組合せなどを試行錯誤し、音楽をつくる学び	表現しているものを、プログラミングを通じて動かすことにより、新たな発想や構想を生み出す学び	クラブ活動において実施
理科	電気製品にはプログラムが活用され条件に応じて動作していることに気付く学び		
算数	図の作成において、プログラミング的思考と数学的な思考の関係やよさに気付く学び		

【実施のために必要な条件整備等】

- (1) ICT環境の整備
- (2) 教材の開発や指導事例集の整備、教員研修等の在り方
- (3) 指導体制の充実や社会との連携・協働